

2002 年「四季折々」より 柏で迎える単身赴任最後の 12 月

来年定年を迎え、神戸に帰ることを決めた 2002 年 12 月 長かった単身赴任の生活を終え柏で迎える最後の師走
どんなことをかんがえていたのだろうか・・・と。 2002 年「四季折々」のページを繰ってみました、思いは今と同じ。
大きな変革期のうねりの中、まだ日本はもがきつづけているのだなあ・・・と。

2002 年 12 月 師走 関東で 晩秋と初冬が入り混じる中で 2002 年「四季折々」より

師走 今年はずいぶん寒い日が続く、街には華やかなクリスマス イルミネーションが輝いています。
でも、なんか うつろろで 全く師走・クリスマス シーズンの感じがしません。年々 感激性が薄れ
て行くのは歳の性でしょうか



今年のクリスマス テーマ は 「和解」「平和」「希望」 この夜、世界中で求められている「和
解 平和 希望」の祈りを捧げます。

「どんなグループでも違った者同士の集りゆえ、その基盤
は「赦しと和解」のはず。

愛ゆえに、現状を越える広がりへのチャレンジが「平和」
として、生ける泉の水として汲みつづける「希望」です。」

(2002 神戸市民クリスマスより)

街の華やかさとは裏腹に デフレ不況とリストラの波はもう 産業構造を根底から変えないと収まら
ぬところまで来ており、地球規模での環境問題の深刻化 世界戦争の危機等 知らず知らずのうちに
自分の身にまでそれらが及んできています。

もう 現状維持型の将来の夢など追えない時代

団塊の世代が作り上げた時代は脆くも根底から 遷り変わる運命。

技術・産業の時代から 知識・情報の時代へ 団塊の世代に 何か 智恵はないのか・・・

素材産業である鉄鋼の技術屋として 40 年。 日の出の勢いで「産業の米」として日本を支えた重厚長大
の素材産業の蓄積はなんだったんだらうと思う事が多いこのごろです。

国際競争 国際的分業が進み、若い起業家が起こしたビジネスが旧来の大企業を超えるビジネスに成長
を始め、ビジネス形態という問題であるが NGO 等新しい息吹が始まり、新しい企業群がかつての大企
業を追い抜きつつある。

旧来の企業の構造改革 風土改革が叫ばれ、新たなサクセスストーリーを求めて企業変革が生き残りをか
けた変革の嵐が今吹き抜けている。

この嵐の中で、本当に生き残れるのだろうか・・・不安とあせりがいりまじる不安定な日本の
社会情勢ビジネスやるにしても社会にとっても 「価値の創性」がなければ、新しい流れはできっこな
い。ここれが企業風土の改革 構造改革のペースであろう。

ロートルがリーダーとして 縮小均衡・合理化の管理路線を追い求めても それだけでは 決して価値
はうまれず、新しい企業に追い抜かれるだろう。

この嵐の中で、本当に生き残れるのだろうか・・・不安とあせりがいりまじる不安定な日本の社会情勢ビジネスやるにしても社会にとっても 「価値の創性」がなければ、新しい流れはできっこない。ここれが企業風土の改革 構造改革のベースであろう。

ロートルがリーダーとして 縮小均衡・合理化の管理路線を追い求めても それだけでは 決して価値はうまれず、新しい企業に追い抜かれるだろう。

重厚長大企業のアムニチアがここにある。もう 旧来型 アメリカモデルのみでは生き残れない。かつての栄光はもはや幻想であり、新しい創造に向けた新しい取組とそれを強力に推進するグループのみが生き残れるのだろう。

若い力が新しい創造を求めて動き出すこと 虚業から実業への真の実践を切望するのですが……………。

最近の TV を見ていると 価値観を忘れた 何かノーテンキな主体性のない若者の群れと旧を守ろうと

するかつての主流層 みんな ダメなのを知りながら 苦勞のないこちよい響きに 自分もそんな中に身をおいている楽天主義と閉塞感

でも NPO で働く若者の逞しさに今の企業が忘れた実践の価値をみるのですが…………

まあ 今年は そんな時であったのかなあ………… 1年 ぼやきながら 終わりそうです。

柏で迎える4度目のクリスマスになりそう。

来年は還暦 新しい未来に自分も…………と思っています。

2002. 12. 7. 週末の午後 柏で Mutsu

神戸で

12. 1. 神戸で尼崎の同級の仲間の会に行く。 恩師の N 先生も見えられて

『「MUTSU」 明日みんな寄ってくるけど 神戸にいるなら 出といで…………』と前日 三宮で焼き鳥屋の専門店やっている S 氏より、ふいの電話。小学校からの仲間である。去年も電話くれたのに神戸に居らず欠席。

みんなクラスも違うのですが、中学や高校で 放課後 暗くなるまで スポーツやっていた仲間。

40 年振りの仲間もいるのですが、全く遠慮や違和感がない。

でも みんな もう来年は 60 才になるのですが、元気・元気。 話し始めたら止まらない。

自分中心で 何でも 良く知っていたように思うのですが、次々出てくる「今だから話そう」の話聞いているとビックリ。 知らなかった事多いですね。

みんな 60 年の人生しょってなあ…………とつくづく思いました。

みんな いまだにスポーツと関係した仲間持っているのにも驚き。

呼んでくれた S 氏も 脱サラして この生田神社鳥居前で店を始めて 26 年という。

神戸大震災にも遭って…………

柔道やっていた某君など 若い起業家顔負け。

「今から新しいベンチャー立ち上げる。 企業サラリーマンたち 元気出せ」 と…………

M 氏はオールド ラグビーの世話しながら、今も ラガーマン。

そういえば『Mutsu』…………急に会社にあられよって と 2 年先に会社に入っていた仲間が入社の頃の話をはじめた。

みんな ドラマを持っていますね……………。

最後はまた スポーツの話になって 「野球はもうちょっとで全国大会やったのにと…………」

僕らの高校に「熱風」という素晴らしい応援歌があり、何かにつけ集まると歌う歌。

「甲子園のために作られた歌」と思っていたのですが、スタートは「ラグビー」の応援歌だとか…………

東京で

12.6. 夜 東京・銀座の小さな小料理屋で大学の仲間と忘年会。メールで「忘年会やろう」との声自然発生的に東京の仲間が集まりました。

関西からもやってきて……。卒業して何十年もあっていない仲間にもあえて……。

みんな 卒業後 40 年。 道は異なれども材料技術屋の年輪がきざまれ、実にいい顔。 もう 時間が足りないほどみんなしゃべって 笑って。

熊谷にいる S 氏が「おい Nakanishi 蒙古の沙漠で 星見に行こう」という。

昔よく語ったシルクロードの沙漠。 南極や北極やアメリカのアリゾナ沙漠ではあかんとという。

そういえば 昔 「……ゴビの沙漠に虹がたつ……」とよう歌いましたっけ。

でも また 一つ 楽しみできました。 実現できれば……。

老年近く 最近色々な会のお誘いがかかると できるだけ でかける事にしている。

やっぱり 良しにつけ 悪しきにつけ 仲間がいる事は心強いとつくづく思っています。

12.7. 朝 柏で 二日酔いで寝床でぼっとしている所へ 神戸からのクール宅急便。家内からの食糧の差し入れ 「塩取る量へらせ」のコメントとともに
こっちのほうは こっちで 有難い事です。

2002. 12. 7. 小雨の柏にて

12 月ホームページのコメント 書きながら Mutsu

阿弥陀堂だよりの著者 南木佳士氏は「阿弥陀堂だより」を書いた時の心境について 書かれた文をインターネットでみつけた。

日帰り登山で下山するとき、急な登りであえいでいた余裕なき己の姿を鮮明に思い出すが、笑う気にはなれない。それに似た感情をあこのろの自分に対して抱く。人生の山を登りきる直前の苦しさだったのかもしれない。だから、いまは肩の力を抜いてゆっくり景色を見ながら下ってゆく心地よさを何よりも大切にしたい。
それを支えるのはマンネリを好むからだの声に逆らわずに暮らすことなのだ
と五十歳になってようやく気づいた。

ほんとうにそんな心境で「肩肘はらずに 無理せず 自然のままに 頑張らずに生き活きと……」と呪文のように唱えるのだが、中々うまく行かない日常。
「時々 こころの洗濯をして あるがままに……
でも 少しは行動的でありたい」。

2002. 10. 27. 夜

星野富弘さんの詩画展と映画「阿弥陀堂だより」を
観たあとで Mutsu



この言葉 今も呪文のように 今の生活の中に……

2002 年 12 月 こんな風に過ごしていたのかと昔を懐かしく思い出しました。

2002 年 12 月 長い会社生活を終える年だったのだと……。

これも 12 月年年賀はがきのおかげ。 「未」の周り年 まだまだこれからぞと